#### 海猽ニ於ケル接種黴毒

メタデータ	言語: jpn
	出版者:
	公開日: 2017-10-04
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者:
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/31121

١

# 海獏ニ於ケル接種黴毒

(十二月十日受附)

金澤醫科大學細菌學教室

授谷

友

次

敎

下正

柿

正道

藤勘四郎

齊

annの、Uhlenhuth & Mulzer®、Margolis®等モ陽性成績ヲ得ルニ到レリ、但シ、Mulzer®ノ其後ノ實驗ハ常ニ陰性ニ 猿或ハ家兎ニ於ケル陰部接種方法ヲ海猽ニモ應用スルニ到リ、 W.H. Hoffmann ® 、Truffi ® 、Tomasczewski ® 、Aum-植シテ失敗ニ終リシガ、豫メ六代―七代、家兎前眼房ヲ通過セシメタル崇株ヲ以テ該實驗ニ成功スルヲ得タリ、 海猽ノ接種黴毒ニ成功セルハ Bertarelli ʊ匈匈ヲ以テ嚆矢トナス、 同氏ハ人類ヨリノ材料ヲ直接、 海狽ノ前眼房ニ移

終レリト。

Tomasczewski®ハ海狽ヲ三代目迄通過セシメ、又家兎及ビ猿ヘノ Rückimpfung ニモ成功セリト報告セリ、之ヲ要スル ヲ見ザルコト、四、多クノ報告ニョレバ、次代海猽へノ移植及ビ家兎乃至猿へノ Rückimpfung ハ不成功ニ終レリ、唯 陽性ニツカザルコト、二、接種局所症狀ハ輕度ニシテ速ニ消退スルコト、三、局所淋巴腺ノ腫脹 或ハ其他ノ轉移症狀 二海猽ハ家兎等ニ比シテ感受性低キモノト信ジラレタリ。 然シテ之等ノ報告ニ共通ナル觀察トシテ、次ノ如キ諸點ガ記載セラレタリ、卽、一、接種成績ハ不確實ニシテ毎常

然ルニ、近年 Kolle & Evers fi ハ「ス・パ」(「スピロヘータ、パリダ」)ヲ海猽ニ接種スル時ハ局所症狀ノ發現スルト否

トヲ問ハズ、「ス・パ」ハ體内深ク侵入シ増殖スルモノニシテ接種後、七六日目ニ膝膕腺ヲ摘出シテ家兎ニ移植シ、 陽性

成績ヲ得タルヲ報告シ、序デ Worms⑫ハ兩氏ノ報告ヲ追試承認セリ。

余等ハ海猽黴毒ニ關スル詳細ナル研究報告ナキト、前述 Kolle 等ノ報告ニ興味ヲ覺エ、本實驗ニ着手セルモノナリ。

### 风 驗 方 法

ビ陰囊皮下へノ黴毒組織片挿入サモ施行セリ。 ・シテ右側陰嚢皮内接種サ試ミ少數ノモノニハ、同時ニ睾丸内注射及生トシテ右側陰嚢皮内接種サ試ミ少數ノモノニハ、同時ニ睾丸内注射及以上ノ大海猽ト、二○○瓦前後ノ小海猽トサ用ヒタリ、何レモ雄性ナリの以上ノ大海猽ト、二○○瓦前後ノ小海猽トサ用ヒタリ、何レモ雄性ナリの以上ノ大海猽ト、二○○瓦前後ノ小海猽トサ川ヒタリ、隠重四○○瓦

ントスの

ヘータ」ヲ直接視ルコトトシタリ。時、ソノ刺戟血清ヲ採リテ、暗視野照輝法ニテ「ス・パ」ト思ハルル「スピロ観察ハー週二回宛 行ヒ、 成績判定ハ'接種局所ニ小ナル結節ヲ 認メタル

思ハル・モノヲ多數ニ發見シ黴毒性變化ト認ムルモノニ遭遇シタレドモ之時ニ包皮或ハ會陰堤ノ陰莖附着部ニ糜爛ヲ生ジ刺戟血清中ニ「ス・パ」ト

る。

セズ、今回ノ報告ニハ陰霾皮上ノ接種局所ノ變化ノ經過ヲ記述スルニ止メ等ハ別ニ尙研究セラルベキ餘地アリト考フルヲ以テ陽性率ノ計算ニハ算入

甚ダ輕度ニシテ扁平ナルヲ以テ之ヲ潰瘍ト呼バズ假リニ糜爛ト記載註、一、海復ニ於ケル黴毒性組織缺損ハ家兎等ニ見ルモノニ比シテ浸潤

移行スル部分ハ稍隆起セリ、此部チ假リニ會陰堤(Dammleiste)ト稱部チ假リニ會陰窩(Dammgrube)ト稱ス、然シテ陰囊ヨリ會陰窩ニニ、海猽ノ會陰部(Damm)ハ腹腔内ニ牽引セラレテ窪ヲ作レリ、此

## 陰囊皮內接種成績(第一表參照)

狀持續期間ニ於ラ大差ナク、潛伏期ハ小海猽ニ於ラ反對ニ非常ニ延ビタリ。 ク、症狀持續期間モ長ク一般ニ感受性高キガ如ク見エタレドモ、 第三囘實驗ニ於テハ、大小ノ海猽ハ其陽性率及ビ症 陽性率 第一囘及ビ第二囘實驗ニ於テハ、大海猽ハ二○%ニ、小海猽ハ四○─五四%ノ陽性ニ出現シ、 後者ハ潛伏期短 余等ハ「ス・パ」浮游液ノ陰囊皮内接種試験ハ三囘ニ豆リテ施行セリ、其等ノ總括ハ第一表ニ示スガ如シ。

第一表 陰囊皮內接種成績

	)	Ш	]	II		I		番實號驗	
7	小、 一九	大, 二,	小 五	大、五四	小、一三	大, 10	1	海 冥 政	
	平一 均 ○	平均二〇一七	平二五〇:	平均〇一七	平均〇-1 -1	平四〇〇 - 七 五·	E E	<b>典</b> 豆	
	八四 一〇	五.七 一四 一〇	七〇六〇	五五五〇〇	九三七五	八一 一	Ī	<b>t</b>	
	y.	二 八 IX	l v	二八、V	n,	二* 八 IV	l	妾	
,	ŕ	五五	ŕ	八、V、二九	,	九		<b>a</b>	
	"	XI 二 六 2/1	y	VIII 三 3/1	v	XI* = -, 1/1	木木	妾重オ	
	ŋ	右側陰囊皮內.	V	右側陰囊皮內.	IJ	右側陰囊皮內.	接種』	接種部位	
	一九一九、四七	五、 四五	五—11、四〇	五	一三一七、五四	10-11, 110	陽性數、%	*** 成	
	平均 三四四	平均 一二三 四	平均 二一	二七二	平均 二四	平均 三一日	潜伏期		
	平均 二二	平均 二〇	平力 均 二二五 〇	111	平均 一七九	平 均四 五五 日	期症 財症 財症 財症 対抗 関續	績	

註、\*二八、Ⅳ、一九二一九二八年四月一九日。

\*\*XI、二一、1/=菌株XI 號、二一代目家兎睾丸通過、一視野平均一個ノ「ス•パ」チ有スル濃度。

\*\*\* 海猽ハ接種後二週間以上生存セルモノヲ採用セルモノナリ。

以下之ニ準ズ。

告セル所ナルガ海猽ニ於テモ同様ナル事例ノ存在スルヲ發見セルモノナリ、但シ此海猽ハ陽性率ノ計算ニハ算入セズ。 局所ニ病變ヲ呈セズシテ、「ス・パ」ノ永存スルコトアルハ、旣ニ家兎陰囊接種試驗ニ於ヲ Zurhelle & Strempel® 等ノ報 以上、三囘分ノ成績ヲ總括スル時ハ第二表ノ如シ。

第二表 陰囊皮內接種成績總括

平均 四一四一日	平均二六日二六日	<b>8</b> %	六三一二六	三四六瓦	總括
平均 一九日	平均 二八日	四九%	三七一一八	二〇〇瓦	小海溟
平均 一六日	平均 二〇日	11 %	ニ六ー 八	五五三五	大 海 榠
症狀持續期間	潜伏期	陽 性 率	陽性數	平均體重	海賀種類

括スル時ハ全數六三頭中二六頭、 症狀及ビ經過 陰覊皮内接種ノ場合ニ見ル局所症狀ハ肉眼的所見ヨリシラ、凡ソ二種ノ形ニ區別スルコトヲ得ベシ、 四一%ノ陽性成績ナリ。

郇 移行スルヲ見ル、 外方ヨリ治癒シ始メ陰莖或ハ會陰窩ニ向ヒ糜爛進行シ所謂腎臟形 (Nierenform) ヲ呈シ包皮ノ前面乃至會陰堤ノ邊緣迄 及ブモノアリラ、陰囊ノ無毛露出部全面ヲ占ムルコトアリ、周圍ヨリ漸次萎縮シラ完全ニ治癒スルモ 糜爛形ハ扁平ナル淺キ糜爛ヲ伴フモノニシテ、 表面濕潤黃色ノ汚キ苔(Belag)ヲ以テ被ハレ、 糜爛ノ 直徑ハ一五。。。 - 七日位ノ間ニ既ニ消退スルモノアリテ、此變化ヲ見落ス恐レアリ、時ニ三六日間モ持續セルモノアリシガ稀 結節形ハ小サキ圓キ浸潤ニシテ、普通直徑二・○mヲ超エズ、糜爛ヲ作ラズ、此形ノモノハ、經過一般ニ短カク四─五。。。 一ハ結節形(Knotige Form)、ニシテ、一ハ糜爛形(Erodierte Form)ナリ。 此形ハ前者ヨリモ經過長ク一般ニ、二週間以上ニ及ブ。 ノアリ、 ナリ。

糜爛ヲ形成スルモノアリ、 上述ノ分類ハ勿論便宜上ノモノニシテ、 此等ノ兩形ノ大小海猽ニ來ル割合ヲ見ルニ次ノ如シ。 判然タル區別アルニ非ズ、 最初可ナリ長ク結節形ニラ經過シ途中急ニ大ナ

原 著 谷・柿下・齊藤=海獏ニ於ケル接種黴毒

一一頭ハ糜爛形、 大海猽ハ陽性八頭中、 **碊リ一頭ハ早期死亡ノタメ不明ナリ、卽、大海猽ニハ結節形多ク小海猽ニハ糜爛形多シ** 七頭迄結節形ニシラ唯一頭ハ不定型ナル糜爛形ナリ、小海猽ハ陽性一八頭中、 六頭ハ

時直ニ刺戟血清ヲ鏡檢スルコト肝要ナリ。 粒大ノ小 何レノ形モ浸潤ハ家兎黴毒ニ見ル如ク强カラズ、然レドモ其刺戟血清中ニハ多數ノ「ス・パ」ヲ發見スルヲ常トス、 結節ョリモ無數ノ「ス・パ」ヲ見ルコトアリ、 然カモ此等ノ小結節ノ經過ハ 屢~一過性ノコトアルヲ以テ、發見

發見スルコトヲ得の モ突如トシテ會陰堤ノ糜爛ヲ見ルコトアリ、 陰囊硬結ヨリ漸次移行シテ發生セリト認メラルベキモノアリ、 海狼ノ會陰堤ニ於テ陰莖後方ノ皺溝ニ屢、 表面ノ苔ヲ清拭シテ刺戟血淸ヲ見ルニ多數ノ「ス・パ」ト思ハルベキモノヲ 片側或ハ兩側ニ、三角形或ハ腎臓形ノ糜爛ヲ生ズ、之ニ 叉結節形ノ如ク全ク固定シテ移動セザルモノニ於テ

菌ニョル膿瘍ナリキ、會陰窩ニ貯溜スル耻垢樣物質中ニハ時々 Refringens-Typus ノ 太キ「スピロヘータ」ヲ見ルコトア 皮上ニ小サキ皮膚缺損ヲ有シ刺戟血清中ニ「スピロヘータ」ヲ發見セズ、 非黴毒海猽ヲ大小雌雄合セラ、三四四頭ヲ檢査セシガ唯ノ一頭ニモ同様ナル病變ヲ見ザリキ、 ノヲモ見ルニ及ビ、 **ا** 余等ハ始メ、陰囊硬結ノ移動 モ決シラ「ス・パ」様ノ物ヲ見ルコトナシ、即、 家兎ニ於ケル Spontanspirochätose ノ如ク、海猽ニモ、カカルモノノ存在セザルヤヲ疑ヒ、 セルモノト認メ、之ヲ徽毒性變化ト考ヘシガ、 徽毒ニ無關係ノ海狽ニハ全クカカル變化ヲ發見セザルナリ。 他ノ一頭ハ包皮ノ腫脹アリシガ之ハ葡萄狀球 其後全ク獨立ニ發生セリト思ハル 唯二頭ニ於テーハ陰臺 iv

全ク同型ノ「スピロヘータ」ヲ檢出シ得タリ、 總計九頭ニ之ヲ認メ、中八頭ハ接種局所ノ變化ニ序デ來レルモノ、一頭ハ全ク他ノ病變ナク 然ルニ、余等ノ黴毒接種海猽ニ於テハ、第一囘實驗ニ於テ小海猽二頭、第三囘實驗ニ於テ大海猽一頭、小海猽六頭、 表面ノ苔中ニハ太キ「スピロヘータ」ヲ認ムルモ 經過ハー般ニ長クー週間乃至三ヶ月ニ及ブ。 ノモアリシガ深部ノ刺戟血清ヨリ ハ、何レニモ、「ス・パ」ト 獨立ニ此處ニ現ハレタル

化ト思考スレドモ尙、ソノ組織學的所見並ビニ「ザルバルサン」ニ對スル關係、 ニシテ、之等ヲ總合シテ後、決定的判斷ヲ下スベク、本論文ニ於テハ、陽性率計算ニハ算入セズ、 唯、 力 カル變化ハ非黴毒海猽ニ見ザル特有ノモノニシテ、「ス・パ」ト見ルベキモノヲ毎常深部ニ檢出スルヲ以テ黴毒性變 家兎へノ轉植可能關係等ヲ目下研究中 カカル所見ヲ

## 陰囊皮下接種成績(第三表參照

記載スルニ止ム。

續期間モー七日ニシテ大海猽ニ比シ成績劣レリ。 平均二三日ナリ、小海狼ハ六七%ノ陽性率ニシテ潛伏期ハ特ニ、六五日ニ延ビタルモノモアリテ平均三四日、 症狀持いい こいい へいいい かんしゅう 性家兎睾丸組織片ヲ挿入シテ經過ヲ見タルニ、大海猽ハ五頭共ニ陽性ニ出現シ潛伏期ハ平均一三日、 症狀持續期間ハ 實驗第三ニ用ヒタル海猽中、大五頭及ビ小九頭ニ、 右側陰囊皮内ニ接種スルト同時ニ左側陰囊皮下ニ米粒大ノ黴毒

Æ 大海猽ノ變化ハ接種局所ノ浸潤强ク極期ニハ直徑五―八mニ及ビ表面ノ潰瘍ハ直徑一―ニmナリ、 前述ノ糜爛形ナリキ。 小海猽ノ方ハ何

4

第三表 陰囊皮下接種成績

總	I	II	番	實
括		<del>,</del>	號	驗
_	小、九	大、五	*	毎 冥 敦
	平一均七	平四 均二	-	
	- - - - - - - - - - - - - - -	四六四元 五三〇五	Ī	fi
平均	<i>y</i>	二 六 IX		妾重
體重	,	二 五		¥
二八六瓦	"	XI = = = = = = = = = = = = = = = = = = =	* *	妾重才斗
	"	<b>左側陰囊皮下、</b>	接種之量	接種部位
一四一一一、七九	九一六、 六七	<b>н</b> . − <b>н</b> . − ○	陽性數、%	成
九	一 一 六 一 六五	平均 一三六	潜伏期	
平均 二二 〇九	平均八一二九	日平均 二三日	期症狀持續	績

原 著 谷・柿下・齊藤=海猽ニ於ケル接種黴毒

原

### 其他ノ症狀

海猽睾丸ハ家兎ノ場合ト巽ナリ「ス・バ」ノ増殖器官トシテ不適當ノ臟器ナルガ如シ。 膚ノ硬結等ヲ見ズ、又時々該睾丸ヲ突刺シテ睾丸液ヲ檢査シタルモ一度モ、「ス・パ」ヲ發見セザリキ、之ニ由テ見レバ 實驗第一ニ於ラ、全部ノ海猽ニ同時ニ左側睾丸内ニ「ス・パ」浮游液○・一ヒ☆タヲ注射セシガ睾丸ノ腫大、陰囊皮

ル糜爛ヲ生ジ(直徑五·○ g.)「ス・パ」數モ増加シー週間ノ後又漸次治癒ニ傾ケリ、カクノ如キ再發或ハ症狀增惡ハ家兎ニ 日目ニ局所ニ結節形ノ小隆起(直徑二・○㎡)發生シ順次治癒ノ傾向ニ向ヒシモノガ、ソレヨリ三○日目ニ及ビ急ニ大ナ 囊ニ組織片挿入後六九日目―最初ノ症狀消退後三三日目―ニ左側接種局所ニー致シラ米粒大ノ小隆起ヲ認メ、 戟血清中ニ少數ノ「ス・パ」ヲ發見シ、四日ニシテ消退セリ、又同實驗ノ一小海猽ニ於テハ、右側陰囊皮内ニ接種後三九 患海猽ノ血清ヲ採リワ氏反應、マイニッケ氏反應、村田氏反應ヲ檢査セシガ常ニ陰性ナリキ。 唯、稀ニ再發(Recidiv)或ハ症狀增悪(Exazerbation)ヲ見タルコトアリ、 上述ノ實驗ニ於ラ、局所淋巴腺ノ腫脹ヲ見ズ、又家兎ニ於ヲ屢見ヲルル眼角膜ヘノ轉移等ニ遭遇セズ、 即、實驗第三ノ一頭ノ大海獏ニ於テ左側陰 尚、 ソノ刺 時々罹

### 次代移植成績

| 屢見ラルル所ナルモ、海猽黴毒ニハ今日迄カカル記載ナキガ如シ。

Tomasczewski § 多クノ從來ノ報告ニョレバ海猽黴毒ハ次代海猽へノ移植或ハ家兎乃至猿へノ Rückimpfung ハ不成功ニ終レリ、 ノミハ海猽ヲ三代目迄通過シ他種動物へノ轉植ニモ成功セリト報告セリ。

ヲ採リ之ヲ一・○%枸櫞酸曹達加生理的食鹽水一・○。ニ混釋シ、「ス・パ」ノ濃度光ノモノヲ得、之ヲ體重四六○、四七 第三囘實驗ノ左側陰囊皮下ニ組織片ヲ挿入シテ陽性ニ出タル四頭ノ 大海猽ヨリ 接種後一八日目ニ 刺戟血清

四八〇瓦ノ三頭ノ海猽ノ兩側陰囊皮内ニ、〇: c: 宛注射シ、 同時二二頭ノ家兎(F14及B14號)ニモ、 左側睾丸內

及ビ右側陰囊皮内ニ各〇·一 ci宛接種シ上述ノ關係ヲ觀察シタリ。

- 五日間ニシラ消退セリ、ソノ他ノ海猽及ビ家兎ニハ未ダ何等ノ症狀ヲ發見セズ。へい、いいい、 ・ラ今日迄六八日間ノ觀察ニ於テ三頭ノ海猽中一頭(四七○瓦ノモノ)ニ於テ接種後四七日目ニ右側陰囊ノ接種局

陰囊皮内ニモ同量宛ヲ注射シ今日迄、三週間ノ觀察ニ於ヲ未ダ變化ヲ認メズ。 右側陰囊皮内及ビ左側會陰堤ノ邊緣ニ〇・一 c'宛注射シ、同時ニ尙、二頭ノ家兎(E 0'及F 18號)ノ左側睾丸内及ビ右側 生理的食鹽水一·〇 c ニ混釋シ「ス・パ」ルッナル浮游液ヲ得、 之ヲ三代目ノ海猽三頭 (體重三〇〇、三六〇、四五〇瓦) ノ 更ニ此二代目症狀發現ノ海猽ヨリ、最初ノ病變發見當日即、 接種後四七日目ニ右側糜爛ノ刺戟血清ヲ枸櫞酸曹達加

43\* 次代移植ニ於テ無症狀感染ヲ惹起セルヤモ知ルベカラズ、更ニ之等ノ動物ノ内臟ヲ精細ニ檢索シテ初メテ、 黴毒感染 ニ歸因スルモノナリャ否ャ疑ナキ能ハザレドモ、或ハ、「ス・パ」ハ海猽通過ニョリテ甚シク菌力ノ低下ヲ來シ、タメニ 有無ヲ判定セザルベカラズ。 ル點ハ從來ノ多數ノ報告ニー致スル所ニシテ、家鬼通過毒ヲ接種シテ發生セル初代海猽ノ病變ハ、果シテ、「ス・パ」 以上ノ如ク、二代目海猽ノ一頭ニ於テ輕傲ナル病變ヲ認メタルニ止マリ、ソノ他ノ海猽、 殊ニ家兎ニ於テ變化ヲ見

セ 余等ハ目下此點ニ關シ研究中ナルガ此處ニ別ノ海猽ノ内臟檢查成績ヲ併記シテ上述來ノ海猽ノ變化ハ「ス・パ」ニ原因 Æ ノナル ノ推定ヲ確メント欲ス。

## 內臟移植試驗(第四表參照

陽性成績ヲ得タリ、他ノ一頭ニ於テハ脾及ビ睾丸移植ノモノハ早期ニ死亡シ、ソノ他ノ生存家兎ニ於テハ今日迄三ケヽ、・・・ 退後九八─一○五日目)ニ、血液、腦、脾、淋巴腺(腋窩腺及ビ鼠蹊腺) 及ビ睾丸ノ五臓器ヲ夫々一頭宛ノ家兎睾丸ニ 實驗第一ニ用ヒタル生存小海猽二頭(何レモ「ス・パ」接種局所ニ發病セルモノ)ニ就キラ、接種後一四四日目(症狀消

陽性ノ成績ヲ得タルヲ報告セシガ、余等ノ場合ノ如ク、尙遙カニ長ク、殆ド五ケ月後ニ於ラモ「ス・パ」ノ永存セルヲ以 リノ「ス・パ」證明ハ甚ダ興味深キヲ覺ユ。 テ見レバ、恐ラク黴毒感染海猽モ家兎ニ於ケルガ如ク、或ハ生涯、自然治癒ノ望ミナキモノナランカ、 殊ニ流血中ョ 

月間ノ觀察ニテ陰性ナリ。

## 第四表 內臟移植成績

ÞĄ	脊	海	被	
脊 赤	赤	獏	檢	
n	四月九二九日	感染日時		
Ŋ	一 四 日	迄ノ期間	內臟移植	
① 七九、	(十)* 四 五	щ		
(-)	_	液		
(-)	** 七八·(一)	腦	被	
e. II. (-)	<u>∓</u> (+,)	脾臟	檢入	
( <del>-</del> )	(-)* - 0	淋巴腺	臟	
÷,	(-)	睾		
(-)	0	丸		

詿 被檢内臟注射量、血液ハ五ピソノ他ノ個形臟器ハ適量ノ生理的食鹽水浮游液トシテ全臟器ヲ、各家兎ノ兩側睾丸ニ分割注射セリ。 四五日目ニ陽性。

\*\* 七八日目ニ斃死、睾丸内ニ「ス・パ」陰性。

\*\*\* 一〇一日迄ノ觀察ニテ陰性

以上述べ來レル成績ヲ總合シ、海猽ニ見ル「ス・パ」接種局所症狀ハ「ス・パ」ノ感染ニ由來スル モノナルヲ結論セ ント

欲ス、 其理由左ノ如シ。

(四、「ス・パ」接種海獏ノ内臓ヲ家兎ニ移植シテ定型的黴毒性睾丸炎ヲ起シ得タリ。(1、病變部ノ刺戟血淸中ニ「ス・パ」ト思ハルル「スピロヘータ」ヲ多數ニ發見スルコ(1、「ス・パ」接種後一定ノ潛伏期ヲ以テ出現スルコト。 病變部ノ刺戟血清中ニ「ス・パ」ト思ハルル「スピロヘータ」ヲ多數ニ發見スルコト。

### 結

論

家兎睾丸通過毒ヲ海猽(平均體重、三四六兎)ノ陰部ニ接種シテ次ノ成績ヲ得タリ。

一、六二頭ノ海猽ノ陰囊皮内ニ接種シ、四一%ノ陽性成績ヲ得タリ、潛伏期ハ九―四四日、 平均二六日、症狀持續

期間ハ四―四一日、平均一七日ナリ、然シテ幼若海猽ハ老成海猽ヨリ感受性强シ。

一四頭ノ海猽ノ陰囊皮下ニ黴毒睾丸組織片ヲ挿入シ、七九%ノ陽性率ヲ得タリ、 潛伏期、九一六五日、平均二

四日、 症狀持續期間ハ八―二九日、平均二〇日ナリ。

三、二三頭ノ海猽ノ睾丸内ニ接種セルニー頭ニモ病變ヲ發見セズ。

海猽陰囊ノ黴毒症狀ハ結節形ト糜爛形トニ區別スル コトヲ得、然シテ大海猽ニハ結節形多ク、 小海猽ニハ糜爛

形多シ、局所症狀ニハ再發或ハ症狀增惡ヲ見ルコトアリ。

Æ, 局所淋巴腺或ハ眼角膜等へノ轉移症狀ヲ見ズ、又黴毒様血清變化ヲ證明セズ、 但シ海狼ノ會陰堤ニ於ラ屢、 特

種ノ變化ヲ發見ス。

三頭ノ海猽ニ、 次代移植ヲ試ミ一頭ニ於テ陽性ナリキ、三代目移植ノ海猽及ビ家兎へノ Rückimpfung 試験ハ陰

著

性ナリ。

接種黴毒ノ局所症狀ヲ經過シ了ヘタル二頭ノ海猽ヨリ接種後一四四日目ニ内臟ヲ家兎ニ移植シ、 頭ノ血

八、皮内接種後、病變ヲ呈セズシテ三七日目ニ斃死セル一頭ノ海猽ノ肉眼的ニ變化ナキ 接種局所皮膚 組織液

運動性「ス・パ」ヲ證明シタリ。

及ビ脾臓ヨリ陽性成績ヲ得タリ。

#### 追 記

(一、第三囘實驗初代海猽ノ刺戟血淸ヲ轉植セル家兎(F 4及B 4號) ハ接種後一一九日迄無症狀ナリシカバ更ニ此等

ノ睾丸及ビ鼠蹊腺ヲ次代家兎ニ移植シラ觀察中ナリ。

二、同上實驗ノ一小海猽ョリ、接種後九三日目ニ右側會陰堤ノ糜爛部組織ヲ切除シ之ヲ二分シテ一家兎(E エ5號)ノ)

兩側陰囊皮下ニ挿入セシニ、移植後二五日目ニ兩側共ニ定型的硬結ヲ發生セリ。

三、同上二代目海猽ノ右側糜爛部刺戟血淸ヲ轉植セル家兎(E O及E 8號) ハ何レモ接種後二八日目ニ定型的左側睾

九炎及ビ右側硬結ヲ發生セリ。

(四) バ」ト思ハルルモノヲ證明シ此變化ハ一三日間ニシテ消退セリ。

同上三代目海猽ノ一頭(三○○瓦ノモノ)ハ接種後二五日目ニ左側會陰堤ニ糜爛ヲ生ジ、ソノ刺戟血淸中ニ、「ス・

(五、四ノ海猽ノ糜爛部組織ヲ接種後二六日目ニ切除シ、之ヲ二分シテ一家兎(E 5號)ノ兩側陰囊皮下ニ挿入セシニ、

接種後一八日目ニ兩側共ニ定型的硬結ヲ發生セリ。

以上ノ追記ニョリテ、海猽ノ接種局所及ビ會陰堤ノ變化ハ「ス・パ」ニョリテ惹起セラレタルモノナル カト思考セラル。

#### Literatur

1) Bertarelli : Uber die Transmission der Syphilis auf das Kaninchen. II Bericht. C. f. B. 1907, Bd. 43, S. 167 &238. 2) Derselbe: Das Virus der Hornhautsyphilis des Kaninchens und die Empfänglichkeit der unteren Affenarten und der Meerschweinchen für dasselbe. C. f. B. 1907. Bd. 43, S. 448. 3) Derselbe: Über die Empfänglichkeit der Fleischfresser und der Wiederkäuer für exp. Syphilis. C. f. B. 1907, Bd. 4) W. H. Hoffmann: Erfolgreiche Uebertragung von Syphilisspirochäten auf Meerschweinchen. D. m. W. 1910, S. 1025. 5) Truffi : Ueber die Uebertragung der Syphilis auf das Meerschweinchen. B. K. W. 1910, S. 1587. 6) Tomasczewski: Ueber Kaninchenund Meerschweinehensyphilis. Dermatolog. Zeitschr. 1911, Bd. 18, S. 1. 7) Aumann: Kaninchenimpfung mit Syphilitikerblut und Blutserum. Med. Klin. 1912, S. 1710. 8) Uhlenhuth & Mulzer: Beiträge zur exp. Pathologie und Therapie der Syphilis etc. Arb. a. d. Kais. Ges. 9) Margolis: Handbuch von Kolle und Wassermann, 1913, Bd. 7, S. 798. amt. 1913, Bd. 44. H. 3. 10) Mulzer: Handbuch d. Haut- und Geschlechtskrankheiten, 1927, Bd. 15, Teil 1. S. 265. 11) Kolle & Evers: Über die Geschwindigkeit des Eindringens der Sp. 12) Worms: Beiträge zur exp. Syphilisforschung. D. m. W. 1927, S. 959. pall. etc. D. m. W. 1926, S. 1075. 13) Zurhelle & Strempel: Studien über Lebensfähigkeit und Virulenzerhaltung der Sp. pall. etc. Archiv f. Dermatologie und Syphilis, 1927, Bd. 153, S. 219.